

俳句 大津俳句会

音もなくレガッタ滑る寒の風

井芹眞一郎

獅子舞の殊に泣く子のめてたさよ

秋山 恵子

風少し臘梅の香を運びくる

市原 初女

手離せぬ姉の形見のちやんちゃんこ

江藤 みち

初仕事初の制服畏り

大塚喜久子

おだやかな噴煙はるか今朝の冬

坂本 セキ

初春や動物園の復興す

佐賀 久子

篝火に浮かぶ鳥居や初詣

堀川 妙子

初空や浦上の鐘鳴りわたり

松尾 昭雅

ゆずり葉の下を潜りて初詣

武藤 規子

わが為のひと日を使い初句会

渡邊佳代子

俳句 つのはな句会

母にしぐれ父に木枯しぼくに雪

星永 文夫

初釜や茶筌の響き心地良き

塚本 洋子

結び目を少し緩めて今日の春

志賀 孝子

花ハツ手つつん空へ飛びたくなる

田上 公代

佛前に雑煮供えて独りの夜

木庭 杏子

勾玉や未来の形で春を待つ

矢嶋 道子

レギュラー満タン春に向かつて出発す

上杉 波

生きますと十年日記買って春

水野 春子

明日から手紙うけとる海雀

梅木トキエ

短歌 大津短歌会

仄明る金木犀の散り花を

邪気鎮めんと踏むは悲しも

渡辺佐代子

友の訃を知らせるハガキ握りしめ

いよいよ深き闇の声きく

吉永 恵子

御念珠に信者の心中いやさかに

念じてくるる還暦の宴

菅野 静

玄関にキャンプ帰りの娘が置きし

ペットボトルの野の花やさしも

豊岡ミツル

八十路きて迷う心のなけれども

銀杏落葉は懐かしきかな

小平 善行

短歌 万年青短歌会

再建の宅地は広し工事すと

トイレも設置小春日を歩く

大林 律

垣元に菰をかぶりて若みかん

春来れば白き花咲き香も放たなむ

磯崎テル子

出勤の途次に立寄り妻を看る

川添主人は心やさしも

中山 春代

地震をのがれ三たび送れる大晦日

迎える年は皇紀新年

山内 信子

お宮復元百歳祝ひの古里の記事

脳裏にあるは優しき人柄

合志 妙子

野仏に会へば描きたくなりますと

祈る形の友の絵手紙

合志 桃花